一誌一句（受贈誌９・10月号他より）

米田　透　抄出

雨安居つづける他なしコロナ禍よ　（天　街）　松下　けん

六月のニコライの鐘くぐもれる　（　帆　）　浅井　民子

猪垣に体当たりの音夜のはじめ　（やまぐに）　恒藤　滋生

仰向けに寝かされ瞠る捨案山子　（　波　）　山田　貴世

花疲開きしままの電子辞書　（諷　詠）　和田　華凛

透き徹るもののひそやか慰霊の日　（ＷＡ）　上地　安智

業平やスカイツリーへ雲の峰　（群　落）　西沢　　進

向日葵に負けず劣らず大笑ひ　（四　季）　松澤　雅世

里山へ片脚あづけ秋の虹　（たかんな）　吉田千嘉子

炎帝に仕へて風をとき放つ　（郭　公）　井上　康明